

専門高校検討委員会報告書

平成14年5月

東京都教育委員会

は じ め に

近代的産業の基礎を作り上げた明治時代以来、産業教育は我が国を支える役割を果たしてきた。

戦後の高度経済成長期においては、経済発展の担い手となる専門的知識や技術を身につけたスペシャリストの育成が特に重要な課題となり、専門高校は産業界の要請に応え、多くの優秀な人材を輩出した。専門高校で教育されてきた知識や技術は、日本の経済の発展に大きく寄与してきたのである。

良き職業人を目指す生徒を教育する専門高校の意義は大きい。勤労観・職業観を培い、職業生活に必要な専門的知識や専門的技術の基礎・基本を身につけ、実習等を通じて社会的責任を果たし得る人間を育成するという責務を果たしてきた。将来の就職に生かされる専門教科の学習は、生徒の目的意識を明らかにしてきた。また、ものづくり等の実践は課題解決能力を涵養し、資格取得への挑戦は、生徒の向上心を育んできた。専門高校で行われてきた教育は、職業に関する専門的知識や専門的技術の習得とともに、豊かな人間性を育む場としての教育的意義を果たしてきた。

近年の技術革新・国際化・情報化などにより社会は大きく変化した。これまでの専門高校は、地域と密着して地元産業の発展に大きく貢献してきた。確かに、地域に支えられ、今なお地元産業の発展に貢献している地方の専門高校は数多く存在する。しかし、大都市東京では、工場の移転や就業構造の変化が進行する一方で、高学歴化に伴い普通科高校への進学志向が一層高まっている。今、東京の専門高校は転機に差しかかっている。時代の流れに対応した都市型の専門高校のあり方を模索し、その方向性を明らかにしていかなければならない。

本委員会では、こうした状況を踏まえて検討を重ね、とりまとめを行った。この報告が、今後の専門高校の活性化の一助となれば幸いである。

平成14年5月

専門高校検討委員会